

14 その他のツール

この章では、ClientManagerインストール時にインストールされる小さなツールについて説明します。

CMマネージャで使用するツール。

名前	内容
CMデータベース作成ツール	ClientManager付属のデータベースのメンテナンスを行います。
電源制御コマンド	コマンドベースの電源制御プログラムです。
アラートクリア(CMAAltClr)コマンド	アラートの状態をクリアします。
リシンク(CMResync)コマンド	構成情報を最新の状態に更新します。
アイコン登録(CmMkIco)コマンド	マネージャに登録されたクライアントのアイコンをオペレーションウィンドウに登録します。
クライアント情報差分表示ツール	構成情報の変換を検出します。
クエリ実行コマンド	指定クエリの実行結果あるいは任意のSELECT文の実行結果を、標準出力あるいはファイルに出力します。
CMクライアント削除コマンド	指定クライアントあるいはテキストファイルで指定した複数のクライアントの情報の削除を行ないます。

CMクライアントで使用するツール。

名前	内容
CMクライアント情報表示	CMクライアントの情報の表示
簡易資産情報入力	簡単な資産情報の登録
時刻同期コマンド	クライアントの時刻をマネージャマシンに同期させます。

14.1 CM データベース作成ツール

14.1.1 CM データベース作成ツールの機能

CMデータベース作成ツールは、CMデータベースエンジンを使用してCMマネージャをご利用になる場合に、次の機能を実現しています。

- ・ データベースを作成する。
- ・ データベースを削除する。
- ・ データベースをバックアップする。
- ・ データベースをリカバリする。
- ・ データベースのバックアップを削除する。
- ・ データベースへ接続するためのパスワードを変更する。

14.1.2 手順

14.1.2.1 CM マネージャをインストールする場合の設定手順

CMマネージャをインストールする場合は以下の手順で行ってください。

①CMデータベースエンジンのインストール

データベースサーバにCMデータベースエンジンをインストールしてください。

CMデータベースエンジンのインストールは、「4.2.2 データベースエンジンセットアップ」を参照してください。

②ODBCドライバのインストール

CMマネージャとデータベースサーバが別マシンの場合は、CMマネージャをインストールするマシンにODBCドライバをインストールしてください。

ODBCドライバのインストールは、「4.2.3 データベースの作成とODBC（システムデータソース）の設定」を参照してください

③パスワードの変更

CMデータベースに接続するユーザ名のパスワードを変更します。

CMデータベースに接続するユーザ名は「sa」固定です。

必要に応じてパスワードを変更してください。

CMデータベース作成ツールの使用方法是、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

④データベースの作成

データベースサーバ上でCMデータベース作成ツールを使用しデータベースを作成してください。

CMデータベース作成ツールの使用方法是、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

⑤CMマネージャのインストール

CMマネージャをインストールしてください。

CMマネージャのインストール方法は、「4.3 CMマネージャセットアップ」を参照してください。

14.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順

データベースのバックアップは、以下の手順で行ってください。

①CMマネージャサービスの停止

- CMマネージャマシンが、Windows 2000、Windows NT の場合

「スタート」メニューから「設定」-「コントロール パネル」-「サービス」または、「設定」-「コントロール パネル」-「管理ツール」-「サービス」ダイアログを起動します。

「サービス」リストボックスから「ESMPRO/CM Manager」を選択し「停止」ボタンを押してください。

「停止します」ダイアログの「OK」ボタンを押してください。

「ESMPRO/CM Manager」サービスが停止します。

- CMマネージャマシンが、Windows 95、Windows 98、Windows Me の場合

「スタート」メニューから「プログラム」-「ESMPRO」-「サービス制御」選択し「サービス制御」ダイアログを起動します。

「サービス名」リストボックスから「ESMPRO/CM Manager」を選択し「停止」ボタンを押してください。

「サービスの停止」ダイアログの「OK」ボタンを押してください。

「ESMPRO/CM Manager」サービスが停止します。

②データベースのバックアップ

データベース作成ツールを使用しデータベースをバックアップしてください。

データベース作成ツールを使用方法は、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

③CMマネージャサービスの開始

- CMマネージャマシンが、Windows 2000、Windows NT の場合

「スタート」メニューから「設定」-「コントロール パネル」-「サービス」または、「設定」-「コントロール パネル」-「管理ツール」-「サービス」ダイアログを起動します。

「サービス」リストボックスから「ESMPRO/CM Manager」を選択し「開始」ボタンを押してください。

「サービス」リストボックスから「ESMPRO/CM Sender」を選択し「開始」ボタンを押してください。

「サービス」リストボックスから「ESMPRO/CM Snmp Manager」を選択し「開始」ボタンを押してください。

- CMマネージャマシンが、Windows 95、Windows 98、Windows Meの場合

「スタート」メニューから「プログラム」-「ESMPRO」-「サービス制御」選択し「サービス制御」ダイアログを起動します。

「サービス名」リストボックスから「ESMPRO/CM Manager」を選択し「開始」ボタンを押してください。

「サービス名」リストボックスから「ESMPRO/CM Sender」を選択し「開始」ボタンを押してください。

「サービス名」リストボックスから「ESMPRO/CM Snmp Manager」を選択し「開始」ボタンを押してください。

注意：データベースのバックアップが行えるのは1世代のみです。

バックアップを複数回実行すると前回のバックアップは削除されます。

14.1.2.3 データベースをリカバリする場合の手順

データベースのリカバリは以下の手順で行ってください。

①CMマネージャサービスの停止

CMマネージャサービスの停止は「13.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ①」を参照してください。

②データベースのリカバリ

データベース作成ツールを使用しデータベースをリカバリしてください。

データベース作成ツールの使用方法是、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

③CMマネージャサービスの開始

CMマネージャサービスの開始は「13.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ③」を参照してください。

14.1.2.4 バックアップの世代管理をする場合の手順

(1)世代別バックアップの作成は以下の手順で行ってください。

①CMマネージャサービスの停止

CMマネージャサービスの停止は「14.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ①」を参照してください。

②データベースのバックアップ

データベース作成ツールを使用しデータベースをバックアップしてください。

データベース作成ツールの使用方法是、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

③バックアップデバイスのコピー

②のデータベースのバックアップで、バックアップデバイスファイルが作成されます。

エクスプローラをご利用になりこのファイルのコピーを任意のディレクトリに作成することで世代別のバックアップを作ることができます。

バックアップデバイスファイルは以下の場所に作成されます。

(CMデータベースエンジンインストールディレクトリ)¥Backup 配下に (バックアップデバイス名).BAK ファイルが作成されます。

④CMマネージャサービスの開始

CMマネージャサービスの開始は「13.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ③」を参照してください。

(2)世代別のバックアップのリカバリは以下の手順で行ってください。

①CMマネージャサービスの停止

CMマネージャサービスの停止は「13.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ①」を参照してください。

②バックアップデバイスのコピー

復元したい世代の(1)の③で作成したバックアップデバイスのコピーを（CMデータベースエンジンインストールディレクトリ）¥Backup 配下に上書きコピーしてください。

注意：バックアップデバイスの上書きコピーを行うと最新のバックアップはなくなってしまう。最新のバックアップの保存が必要な場合は、この作業を行う前に最新のバックアップデバイスを任意のディレクトリにコピーしてください。

③データベースのリカバリ

データベース作成ツールを使用してデータベースをリカバリしてください。

データベース作成ツールを使用方法是、「13.1.3 使用方法」を参照してください。

④CMマネージャサービスの開始

CMマネージャサービスの開始は「13.1.2.2 データベースをバックアップする場合の手順 ③」を参照してください。

14.1.3 使用方法

14.1.3.1 起動

「スタート」メニューから「プログラム」-「ESMPRO_CMDBE」-「データベース作成ツール」を選択し起動します。



* ユーザ名

データベースに接続するためのユーザ名です。

「sa」が固定で設定されます。

* パスワード

データベースに接続するためのパスワードです。

「esmprocm」がパスワードの初期値です。

* パスワードを変更

データベースに接続するためのパスワードを変更するダイアログが開きます。

* データベースを作成

データベースを作成するためのダイアログを開きます。

データベースが作成済の場合は選択できません。

* データベースを削除

データベースを削除するためのダイアログを開きます。

データベースが作成されていない場合は選択できません。

* データベースをバックアップ

データベースをバックアップするためのダイアログを開きます。

データベースが作成されていない場合は選択できません。

*** データベースをリカバリ**

データベースをリカバリするためのダイアログを開きます。

*** バックアップを削除**

バックアップデバイスを削除するためのダイアログを開きます。

*** 終了**

データベース作成ツールを終了します。

14.1.3.2 パスワードを変更するには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「パスワードを変更」ボタンを押してください。

旧パスワードと新パスワードと新パスワード確認を入力し「変更」ボタンを押してください。

*** 旧パスワード**

変更前のパスワードを入力します。

*** 新パスワード**

新しいパスワードを入力します。

*** 新パスワード確認**

新しいパスワードを入力します。

*** 変更**

パスワードをデータベースに設定します。

設定後は、このダイアログを終了します。

*** キャンセル**

入力情報をキャンセルしてこのダイアログを終了します。

14.1.1.3.3 データベースを作成するには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「データベースを作成」ボタンを押してください。

データベース名とサイズ、1回の増加量、ログサイズ、ログ1回の増加量を入力して「データベース作成」ボタンを押してください。

* データベース名

データベースの名前を入力します。

* 作成場所

データベースのデバイスを作成するディレクトリです。

CMデータベースエンジンのインストールディレクトリから自動生成されます。

自動生成されるディレクトリは、(CMデータベースエンジンインストールディレクトリ)\Data です。

* サイズ

データベースデバイスの初期サイズをMバイト単位で入力します。

データベースデバイスは自動拡張で作成されます。

既定値は1です。

初期サイズは、「4.2.3.1 データベース容量の算出」を参照して決定してください。

* 1回の増加量

データベースのデータ量がデバイスサイズ最大値を超えるとときに拡張されるデバイスのサイズをMバイト単位で指定します。

規定値は1です。

*** ログ名**

データベース名から自動生成されるログ名です。

ログ名は、(データベース名)_log になります。

*** ログサイズ**

ログデバイスの初期サイズをMバイト単位で入力します。

ログサイズは、1を設定してください。

*** ログ1回の増加量**

ログのデータ量がデバイスサイズ最大値を超えるとときに拡張されるデバイスのサイズをMバイト単位で指定します。

ログ1回の増加量は1を設定してください。

*** データベース作成**

入力情報からデータベースデバイスを作成します。

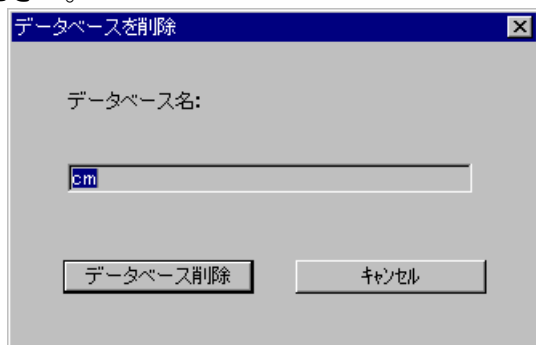
作成後はこのダイアログを終了します。

*** キャンセル**

入力情報をキャンセルしてこのダイアログを終了します。

14.1.3.4 データベースを削除するには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「データベースを削除」ボタンを押してください。



「データベース削除」ボタンを押してください。

「確認」ダイアログの「OK」ボタンを押してください。

* データベース名

データベースの名前が設定されます。

* データベース削除

データベースデバイスを削除します。

削除後はこのダイアログを終了します。

* キャンセル

データベースデバイスを削除せずにこのダイアログを終了します。

14.1.3.5 データベースをバックアップするには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「データベースをバックアップ」ボタンを押してください。



データベースをバックアップ

データベース名: cm

バックアップデバイス名: cm

作成場所:
C:\Mssql7\Backup

バックアップ実行 キャンセル

「バックアップ実行」ボタンを押してください。

* データベース名

データベースの名前が設定されます。

* バックアップデバイス名

バックアップデバイス名が、データベース名から自動生成されます。

* 作成場所

バックアップデバイスが作成される場所が表示されます。

* バックアップ実行

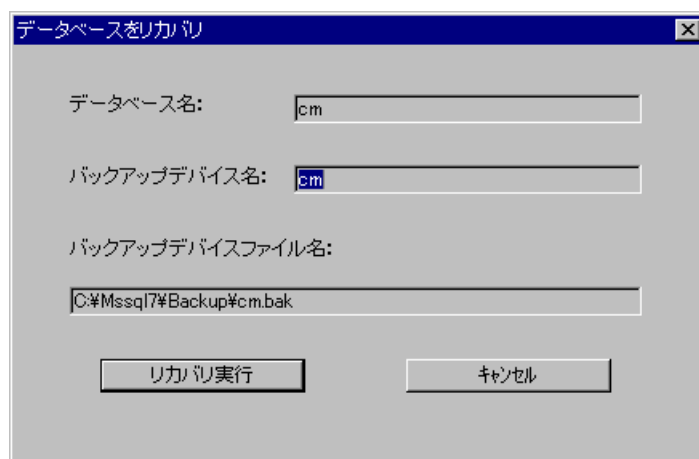
バックアップデバイスを作成してデータベースのデータをバックアップします。
バックアップ完了後はこのダイアログを終了します。

* キャンセル

バックアップ実行せずにこのダイアログを終了します。

14.1.3.6 データベースをリカバリするには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「データベースをリカバリ」ボタンを押してください。



「リカバリ実行」ボタンを押してください。

「確認」ダイアログの「OK」ボタンを押してください。

* データベース名

データベースの名前がバックアップデバイス名から自動生成されます。

* バックアップデバイス名

バックアップデバイスの名前が設定されます。

データベースが作成されている場合は入力不可になりデータベース名と同じ名前が設定されます。

データベースが作成されていない場合は、バックアップデバイス名を入力します。

* バックアップデバイスファイル名

バックアップデバイスが存在する場所とファイル名を表示します。

バックアップデバイス名から自動生成されます。

* リカバリ実行

バックアップからデータをリカバリします。

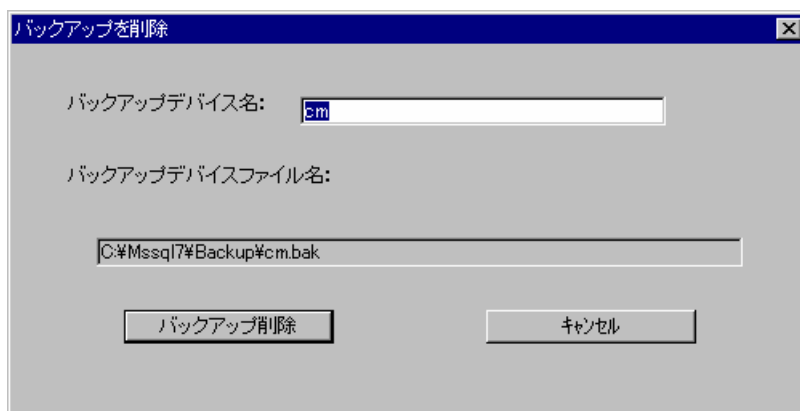
実行後はこのダイアログを終了します。

* キャンセル

リカバリを実行せずにこのダイアログを終了します。

14.1.3.7 バックアップを削除するには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「バックアップを削除」ボタンを押してください。



「バックアップ削除」ボタンを押してください。

「確認」ダイアログの「OK」ボタンを押してください。

* バックアップデバイス名

バックアップデバイスの名前を入力します

* バックアップデバイスファイル名

バックアップデバイスが存在する場所とファイル名を表示します。

バックアップデバイス名から自動生成されます。

* バックアップ削除

バックアップデバイスを削除します。

実行後はこのダイアログを終了します。

* キャンセル

バックアップデバイスの削除を実行せずにこのダイアログを終了します。

14.1.3.8 ツールを終了するには

「ESMPRO/CM データベース作成ツール」ダイアログの「終了」ボタンを押してください。

14.1.4 制限事項

- CMデータベースエンジンに格納できるデータは最大 2Gバイト に限られています。
2 Gバイトを超えそうな場合 SQL Server や Oracle Server をご利用ください。
- 「バックアップを削除」ダイアログでバックアップを削除した後は、バックアップデバイスファイル(.bak)を（CMデータベースエンジンインストールディレクトリ）¥Backup 配下にコピーしないでください。
- CMデータベースエンジンは、ログ切り捨てオプションを設定しています。
ログファイルは、ログサイズで切り捨てられます。

14.2 電源制御コマンド

CMクライアントに対する電源制御についてCMデータビューアあるいはCM管理ツール上で行う以外にコマンドとして実行することができます。このコマンドをESMPRO/JMSSのコマンドとして登録することによりCMクライアントの電源制御をスケジュール管理することも実現可能になります。ESMPRO/JMSSでの操作については、「ESMPRO/JMSS ユーザーズマニュアル」を参照してください。

電源制御コマンドは、電源投入用(PowerOn.exe)、電源切断用(PowerOff.exe)、OSリブート用(CMReboot.exe)、サスペンド用(CMSusp.exe)、ログオフ用(CMLogoff.exe)の5種類のコマンドがあります。各コマンドのパラメータについては以下のとおりです。

PowerOn.exe	$\left\{ \begin{array}{l} /m \text{ マシンID} \\ /g \text{ グループID} \\ /i \text{ IPアドレス} \\ /n \text{ マシン名} \end{array} \right\}$	[/s マネージャ名] [/p ポート番号] [/t タイムアウト]
PowerOff.exe	$\left\{ \begin{array}{l} /m \text{ マシンID} \\ /g \text{ グループID} \\ /i \text{ IPアドレス} \\ /n \text{ マシン名} \end{array} \right\}$	[/s マネージャ名] [/p ポート番号] [/t タイムアウト] [/f モード]
CMReboot.exe	$\left\{ \begin{array}{l} /m \text{ マシンID} \\ /g \text{ グループID} \\ /i \text{ IPアドレス} \\ /n \text{ マシン名} \end{array} \right\}$	[/s マネージャ名] [/p ポート番号] [/t タイムアウト] [/f モード]
CMSusp.exe	$\left\{ \begin{array}{l} /m \text{ マシンID} \\ /g \text{ グループID} \\ /i \text{ IPアドレス} \\ /n \text{ マシン名} \end{array} \right\}$	[/s マネージャ名] [/p ポート番号] [/t タイムアウト]
CMLogoff.exe	$\left\{ \begin{array}{l} /m \text{ マシンID} \\ /g \text{ グループID} \\ /i \text{ IPアドレス} \\ /n \text{ マシン名} \end{array} \right\}$	[/s マネージャ名] [/p ポート番号] [/t タイムアウト] [/f モード]

各パラメータについては、以下のとおりです。

/m マシンID

電源制御を行うCMクライアント管理ID(8桁)を指定します。

電源制御コマンドを実行する場合には、/m、/g、/i、/n パラメータの何れかが必須となります。

このパラメータを指定した場合は、指定したCMクライアント

	のみ電源制御の対象となります。
/g 管理番号	CM管理ツールで作成したクライアントグループの管理番号を指定します。このパラメータを指定した場合は、クライアントグループ単位が電源制御の対象となります。
/i IPアドレス	電源制御を行うクライアントのIPアドレスを指定します。
/n マシン名	電源制御を行うクライアントのマシン名を指定します。
/s マネージャ名	電源制御指示を送信するCMマネージャマシン名を指定します。このパラメータを省略した場合は、電源制御コマンドを実行したマシン上に存在するCMマネージャに対して電源制御指示を行います。
/p ポート番号	CMマネージャのポート番号を指定します。このパラメータを省略した場合は、既定値のポート番号を使用します。ただし、コマンド実行を行うマシン上にCMマネージャが存在する場合は、同一マシン上で動作するCMマネージャが使用するポート番号となります。
/t タイムアウト	マネージャからの応答を待ち合わせる時間を指定します。2880（分）までの値が指定可能です。0を指定すると、無限に待ち合わせます。このパラメータを省略した場合は、3分間マネージャからの応答を待ち合わせます。
/f モード	クライアントマシンの電源切断、リブート、ログオフを行うときに強制的に実行するか、非強制的に実行するかを指定するパラメータです。「0」を指定すると、クライアント上で実行しているプログラムの終了を待ち合わせます。「1」を指定すると、クライアント上で実行しているプログラムの終了を待ち合わせません。

14.3 アラートクリア(CMAltClr)コマンド

本コマンドは、CMデータベースで管理しているアラート情報をクリアし、CMデータビューア上の障害状態を正常に戻すコマンドです。

このコマンドを実行することにより、CMデータビューアで表示しているTreeビューアイコンの色を正常状態(緑色)に戻します。

統合ビューア上のアイコンの色については、障害回復の通知の受信がない場合でも一定時間経過後には正常状態に戻りますが、CMデータビューアのTreeビューアイコンについては、障害回復が通知されるまで状態が保持されることになります。そのため、ネットワーク等の障害により正しく回復通知が届かなかった場合に異常状態が残ったままになりますので、このコマンドを利用してクリアするようにしてください。

使用方法

```
CMAltClr /m ClientID /t AlertType [/s ManagerName] [/p PortNo]
```

```
CMAltClr /i ClientID /t AlertType [/s ManagerName] [/p PortNo]
```

パラメータの説明

/m ClientID CMクライアント管理ID (マシンID) を指定します。
CMクライアント管理IDは、CMで管理しているクライアントマシンに対応するユニークな8桁のIDです。

/t AlertType アラートタイプを指定します。
アラートタイプには、以下のものがあります。

CPU	CPU使用率
MEMORY	メモリ使用率
FILE SYSTEM	ディスク使用率
SMART DISK	ディスク障害
DISK	ディスクアクセスエラー
PRINTER	プリンタ異常
SECURITY	シャージオープン
FAN	FAN異常
TEMPERATURE	温度異常
VOLTAGE	電圧異常
ECC MEMORY	ECCメモリ異常
USER DEFINED	ユーザ定義

	OFF STATE ALERT	オフステートアラート (Ver3.0以降)
	PROCESS WATCH	プロセス監視 (Ver3.1以降)
/s <i>ManagerName</i>	CMマネージャマシン名またはIPアドレスを指定します。自マネージャに対してだけではなく、別のマネージャを指定してもコマンドを発行することができます。	
/p <i>PortNo</i>	CMマネージャのポート番号を指定します。CMマネージャ設定ユーティリティにて、ポート番号(既定値は14370)を調べ、その値を指定します。	

このコマンドが正常に終了した場合は、何も表示しません。パラメータ不足であったりCMマネージャに接続できなかった場合は、メッセージボックスにてエラーを通知します。

14.4 リシンク(CMResync)コマンド

指定したクライアント構成情報を再転送するコマンドです。このコマンドを実行することにより、CMデータベースの指定したクライアント構成情報が最新の状態になります。

使用方法

```
CMResync /m ClientID [/s ManagerName] [/p PortNo]
```

```
CMResync /i IPAddress [/s ManagerName] [/p PortNo]
```

パラメータの説明

<i>/m ClientID</i>	CMクライアント管理ID (マシンID) を指定します。CMクライアント管理IDは、CMで管理しているクライアントマシンに対応するユニークな8桁のIDです。
<i>/i IPAddress</i>	特定クライアントのIPアドレスを指定します。
<i>/s ManagerName</i>	CMマネージャマシン名またはIPアドレスを指定します。自マネージャに対してだけではなく、別のマネージャを指定してもコマンドを発行することができます。
<i>/p PortNo</i>	CMマネージャのポート番号を指定します。CMマネージャ設定ユーティリティにて、ポート番号(既定値は14370)を調べ、その値を指定します。

＊ */m /i* を同時に指定した場合は最後に指定したものが有効となります。

このコマンドが正常に終了した場合は、何も表示しません。パラメータ不足であったりCMマネージャに接続できなかった場合は、メッセージボックスにてエラーを通知します。

14.5 アイコン登録（CmMkIco） コマンド

CMマネージャに登録されたクライアントを、オペレーションウィンドウにアイコンとして登録することができます。

クライアントにSNMPエージェント(サービス)をインストールすることなくオペレーションウィンドウを使用する場合は、このコマンドを使って、クライアントのアイコンを登録してください。

形式1

```
CmMkIco [/CM ManagerName] [/P PortNumber]  
[ { /G GroupName | /GI GroupID } ] [ { /Q QueryName | /QI QueryID } ]  
[ /N Network NetMask ] [ /L | /A | W ] [ /BM NVBASEManager ] [ /MP MapName ]
```

[]は省略可能、{ }は内から選択、下線は省略時解釈、イタリック文字はユーザ指定を示す。

パラメータの重複指定はエラーとします。

オプションを示す文字は'/' (スラッシュ)でも'-'ハイフンでも指定可能とし、大文字小文字は区別しないものとします。

パラメータ	省略可否	説 明
/CM <i>ManagerName</i>	可	CMマネージャのホスト名またはドット表記のIPアドレスを指定します。省略時はローカルコンピュータのCMマネージャに接続します。
/P <i>PortNumber</i>	可	CMマネージャのポート番号を指定します。接続するマネージャの設定ユーティリティにて設定した値を指定します。省略時はローカルコンピュータのマネージャの設定ユーティリティにて設定した値を使用します。ローカルコンピュータにマネージャがインストールされていない場合は既定値である14370を使用します。
/G <i>GroupName</i>	可	マネージャに登録済みのクライアントグループの名前を指定します。指定したクライアントグループ内のクライアントが出力対象となります。クライアントグループの名前はCM管理ツールのグループ一覧に表示されるものを指定します。指定のグループ名が複数ある場合は、本オプションではなく、/GI オプションでGroupIDを指定するようにしてください。/GI オプションと同時に使用することはできません。 /Gオプション、/GIオプション、/Q オプション、/QI オプションをすべて省略した場合は、マネージャに登録されている全てのクライアントについて結果を出力します。

/GI <i>GroupID</i>	可	マネージャに登録済みのクライアントグループのIDを指定します。指定したクライアントグループ内のクライアントが出力対象となります。 /G オプションと同時に使用することはできません。
/Q <i>QueryName</i>	可	マネージャに登録済みのクエリの名前を指定します。指定したクエリの検索条件に一致するクライアントが出力対象となります。クエリの名前はCM管理ツールのクエリ一覧に表示されるものを指定します。 同一名のクエリが複数ある場合は、本オプションではなく/QI オプションでクエリIDを指定するようにしてください。 /QI オプションと同時に使用することはできません。
/QI <i>QueryID</i>	可	マネージャに登録済みのクエリのIDを指定します。クエリのIDはCM管理ツールのクエリ一覧に表示されるものを指定します。 /Q オプションと同時に使用することはできません。
/N <i>Network NetMask</i>	可	指定するネットワークに属すクライアントが出力対象となります。<i>Network</i>にはネットワークアドレス、<i>NetMask</i>にはネットマスクを指定します。 どちらもドットフォーマットで指定します。ドットフォーマットとは4つの8ビットの数値をドットで区切って並べたものです。各数値は8進数、10進数、16進数で指定可能です。 10進数の場合---- 0以外で始まる0～9の組み合わせを指定します。 表記例) /N 192.168.1.0 255.255.255.0 16進数の場合---- 0xで始まる0～9, a～fの組み合わせを指定します。 表記例) /N 0xc0.0xa8.0x01.0x00 0xff.0xff.0xff.0x00 8進数の場合---- 0で始まる0～7の組み合わせを指定します。 表記例) /N 0300.0250.01.00 0377.0377.0377.00
/L	可	いずれのマップにおいても同一コンポーネントのアイコンが既に作成済みでないときにのみアイコンを作成します。
/A	可	いずれかのマップにおいて同一コンポーネントのアイコンが既に作成済みであるときでも、そのコンポーネントの情報を引き継いでアイコンを作成します。/L,/A,/Wオプションの何れも省略した場合は、/Aオプションを指定したものとみなします
/W	可	いずれかのマップにおいて同一コンポーネントのアイコンが既に作成済みであるときでも、そのコンポーネントの既存の情報を一度全て削除した上でアイコンを作成します。
/BM <i>NVBASEManager</i>	可	アイコン作成の対象となるNVBASEのマネージャ名を指定します。省略時は自マネージャを指定したものとします。自マネージャ以外を指定する場合にはマネージャ間通信の設定が行なわれているマネージャ名を指定してください。 表記例) /BM mgr_ESMMGR1

/MP <i>MapName</i>	可	マップ名を指定します。 オペレーションウィンドウの左ペインのマップのツリー表示にしたがって、最上位マップ(top)からの階層を¥(円文字)でマップ名を区切って指定します。 本オプションを省略した場合は、最上位のマップ(top)を指定したものと見なします。 表記例) top¥Internet¥building1¥floor2
--------------------	---	---

形式2

CmMkIco /H

[]は省略可能、{ }は内から選択、下線は省略時解釈、イタリック文字はユーザ指定を示す。

パラメータの重複指定はエラーとします。

オプションを示す文字は'/' (スラッシュ)でも'-'ハイフンでも指定可能とし、大文字小文字は区別しないものとします。

パラメータ	省略可否	説 明
/H	不可	本コマンドのヘルプを表示します。

14.6 クライアント情報差分表示ツール

1.動作環境

OS : Windows NT 4.0

その他: Access97のインストールマシン

2.機能

(1)ESMPRO/CMのクライアント管理情報の一部を複製保存 (最大9世代)

(2)ESMPRO/CMのクライアント管理情報の一部について、現在と過去間のデータの差分検出および表示

(3)本ツールの差分検査の対象データは下記のとおり

- ・CPU情報(バージョン名、動作クロック数)
- ・メモリ情報(物理メモリ、ページファイル)
- ・記憶装置名(ドライブ名、ドライブ種別、ドライブサイズ)
- ・ボード情報(ボード名、ボード種別)
- ・ソフトウェア情報(ソフトウェア名)

3.使用法

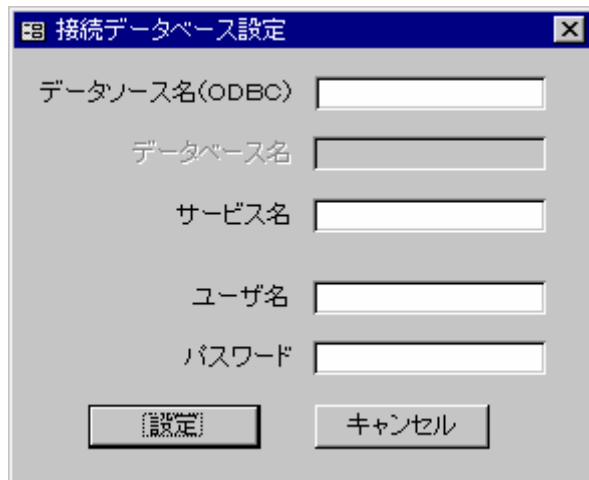
(1)起動

[CMDiff.mde]をエクスプローラなどでダブルクリックするか、あるいはAccess97で開きます。



(2)初期設定

[データベースの設定] ボタンをクリックします。



A dialog box titled "接続データベース設定" (Connect Database Setting). It contains five text input fields: "データソース名(ODBC)" (Data Source Name (ODBC)), "データベース名" (Database Name), "サービス名" (Service Name), "ユーザ名" (Username), and "パスワード" (Password). At the bottom, there are two buttons: "設定" (Setting) and "キャンセル" (Cancel).

CMのデータベースに接続するODBC情報を入力して [OK] ボタンをクリックします。

データソース名 : CM用DBへ接続するODBCデータソース名

サービス名 : 同 サービス名 (Oracleの場合のみ設定)

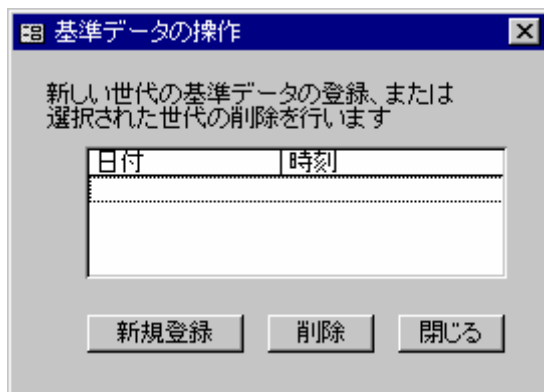
ユーザ名 : 同 ユーザ名

パスワード : 同 パスワード

(注) 接続先を変更する場合、過去に保存している基準データを全て削除してください。

(3)クライアント情報の複製の操作

[基準データの設定] ボタンをクリックします。



A dialog box titled "基準データの操作" (Operation of Reference Data). It contains a text area with the instruction: "新しい世代の基準データの登録、または選択された世代の削除を行います" (Perform registration of reference data for a new generation or deletion of the selected generation). Below this is a table with two columns: "日付" (Date) and "時刻" (Time). At the bottom, there are three buttons: "新規登録" (New Registration), "削除" (Delete), and "閉じる" (Close).

これにより、CMデータベースから各情報のデータを読み出して、[CMDiff.mde]に複製を作成します。また過去に取得保存した基準データの削除を行います

(a)基準データの追加

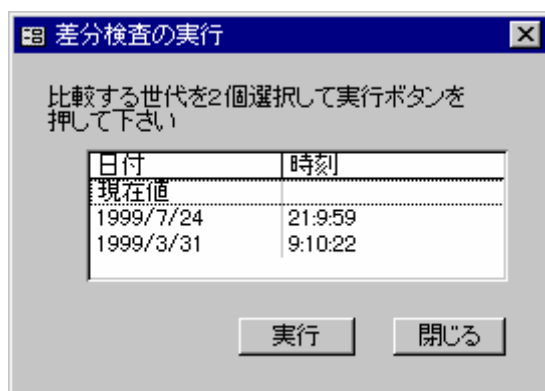
新しい世代の基準データを追加する場合、[新規登録] ボタンをクリックします。

(b)基準データの削除

過去に収集した世代の基準データを削除する場合、削除したい世代をクリックして選択してから [削除] ボタンをクリックします。

(4)差分検査

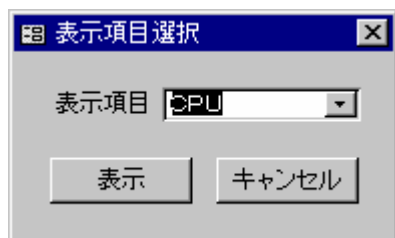
[差分検査の実行] ボタンをクリックします。基準データの世代が保存されていない場合は、エラーを表示します。



一覧の中から、比較する世代を2個クリックして選択して、[実行] ボタンをクリックします。

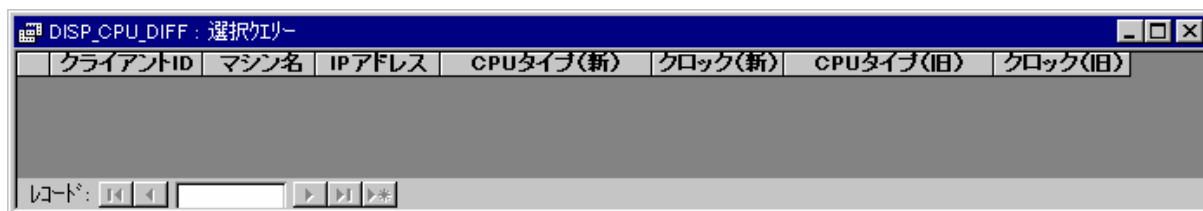
(5)結果の表示

[検査結果の表示] ボタンをクリックすると、以下に表すようなダイアログが表示されます。



[表示項目] ボタン (右端) をクリックして、表示させる項目の種別を選択してから [表示] ボタンをクリックします。

例として、項目選択で[CPU]の項目を選択しますと、以下のような結果が表示されます。



CPU差分の項目説明 (クライアントID、マシン名、IPアドレスは各差分表示の共通情報)

クライアントID	クライアント管理ID
マシン名	クライアントのマシン名
IPアドレス	クライアントマシンのIPアドレス
CPUタイプ(新)	新しい世代でのCPUタイプ
クロック(新)	新しい世代でのCPUクロック
CPUタイプ(旧)	古い世代でのCPUタイプ
クロック(旧)	古い世代でのCPUクロック
メモリ差分の項目説明	
物理メモリ(新)	新しい世代での搭載メモリサイズ
ページファイル(新)	新しい世代でのページングファイルサイズ
物理メモリ(旧)	古い世代での搭載メモリサイズ
ページファイル(旧)	古い世代でのページングファイルサイズ
ボード差分の項目説明	
スロット番号	差分が検出されたスロット番号
ボードタイプ(新)	新しい世代でのボードタイプ
ボード名(新)	新しい世代でのボード名
ボードタイプ(旧)	古い世代でのボードタイプ
ボード名(旧)	古い世代でのボード名
ソフトウェア差分の項目説明	
追加ソフトウェア	世代間で追加されたソフトウェア
削除ソフトウェア	世代間で削除されたソフトウェア
ドライブ差分の項目説明	
ドライブ名	差分が検出されたドライブ名
タイプ(新)	新しい世代でのドライブタイプ
サイズ(新)	新しい世代でのドライブサイズ (全容量)
タイプ(旧)	古い世代でのドライブタイプ
サイズ(旧)	古い世代でのドライブサイズ (全容量)

(5)ツールの終了

[終了] ボタン、あるいは [差分検査] ダイアログ右上の [×] ボタンをクリックします。

(6)その他

(a)差分結果の操作

各差分結果の表示のソート、データの他への利用などについては、Accessの標準機能 (ソート、エクスポートなど) を利用してください。

(b)ファイルサイズの管理

本ツールのファイル (CMDiff.mde) は、基準データの各世代を保持している他に、差分検査の実行における作業領域を確保しますが、不要な領域の自動削除を行いません。適宜、[ツール] メニューの [データベースユーティリティ] の [最適化] を実行して、不要な領域を整理してください。

(c) 比較項目の選択について

前バージョンで提供していました比較項目の選択機能は削除しました。

14.7 クエリ実行（CmQuery コマンド） コマンド

機能

データベースに登録しているクエリ、もしくは、ユーザが入力したクライアント抽出SQL文を実行し、返却された結果を標準出力に出力します。

コマンド名

CMQUERY

形式1

CMQUERY [/S *Manager*] [/P *Port*]

{ /Q *QueryName* | /QI *QueryID* | /SELECT *SQL* } [/F *FileName*] [/A]

[]は省略可能、{ }は内から選択、下線は省略時解釈、イタリック文字はユーザ指定を示します。
パラメータを重複指定すると、エラーとなります。

パラメータ	省略可否	説明
/S <i>Manager</i>	可	接続するCMマネージャの名前もしくはIPアドレスを指定してください。省略時は、レジストリからGUI（データビューア）が接続するマネージャ名を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/P <i>Port</i>	可	接続するCMマネージャのポート番号を指定してください。省略時は、レジストリからGUI（データビューア）が接続するポート番号を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/Q <i>QueryName</i>	不可 (選択)	実行するクエリの名前を指定してください。クエリの名前とはCM管理ツールのクエリ一覧に表示されるものを指します。同一名のクエリが複数ある場合はエラーとなりますので、本オプションではなく、/QI オプションでクエリIDを指定してください。/QI オプション、/SELECTオプションと同時に使用することはできません。
/QI <i>QueryID</i>	不可 (選択)	実行するクエリIDを指定してください。クエリIDとはCM管理ツールのクエリ一覧に表示されるものを指します。/Q オプション、/SELECTオプションと同時に使用することはできません。
/SELECT <i>SQL</i>	不可 (選択)	クライアントを抽出するためのSELECT文を記述してください。記述するSELECT文は本コマンドが定める形式に則らなければなりません。後述の/SELECTオプションの記述形式を参照してください。/Qオプション、/QIオプションと同時に使用することはできません。

/F <i>FileName</i>	可	クエリ結果を出力するファイルを指定してください。
/A	可	出力内容にヘッダを付加する場合は、本オプションを指定してください。

/SELECT オプションの記述形式

/SELECT “テーブル名.列名 FROM テーブル名 WHERE 抽出条件”
--

本オプションの引数は、必ず、全体をダブルクォーティションで囲んでください。

①

抽出する列名を、その列を含むテーブル名を付けて記述してください。

テーブル名、列名ではない文字を記述してはなりません。

また、テーブル名、列名共に、ClientManagerが管理しているものでなければなりません。

②

抽出する列を保持するテーブル名を記述してください。

テーブル名ではない文字を記述してはなりません。

また、テーブル名はClientManagerが管理しているものでなければなりません。

③

抽出条件を記述してください。ここに抽出条件としてのSELECT文を記述する場合、このSELECT文に関しては、①の規則に則る必要はありません。

出力形式

(正常終了時)

{	Attribute1,Attribute2,Attribute3, . . .
	R1_C1,R1_C2,R1_C3, . . .
	R2_C1,R2_C2,R2_C3, . . .
	R3_C1,R3_C2,R3_C3, . . .
	

①ヘッダ

取得したレコードのヘッダを出力します。（/Aオプション指定時のみ）

②クエリ結果

返却されたレコードをCSV形式で出力します。

カラムの値に“,”（カンマ）が含まれる場合は、その値をダブルクォーティションで囲んで出力します。カラムの値に“”（ダブルクォーティション）が含まれる場合も、その値をダブルクォーティションで囲んだ上でもともと値に含まれるダブルクォーティションにはさらにダブルクォーティション1つを付加します。

例 1)

値が ¥10,000 の場合 → 出力 “¥10,000”

値が He said, “Hellow” の場合 → 出力 “He said, “”Hellow””””

（異常終了時）

```
結果：
NNN . . . . .
N
エラーコード：
0XXXXXXXXX
詳細コード：
0XXXXXXXXX
エラー内容詳細：
NNN . . . . .
N
備考：
NNN . . . . .
N
```

①結果

エラーの内容を文章で出力します。

②エラーコード

エラー発生時のエラーコードを8桁の16進数で出力します。

③詳細コード

詳細なエラー内容を示すエラーコードを8桁の16進数で表示します。詳細コードがない場合は出力しません。

④エラー内容詳細

詳細なエラーの内容を文章で出力します。詳細コードがない場合は出力しません。また、詳細コードにマッピングした文章が無い場合も出力しません。

⑤備考

エラー原因特定のために有益と考えられる情報を出力します。フォーマットは不定です。適切な情報がない場合は出力しません。

形式2

CMQUERY {/? /H}

パラメータ	省略可否	説 明
/?	不可 (選択)	本コマンドのヘルプを表示する。
/H	不可 (選択)	本コマンドのヘルプを表示する。

14.8 CM クライアント削除 (CmDelCL コマンド) コマンド

機能

CMマネージャに登録しているクライアントの内、指定したクライアントを削除します。

形式1

```
CMDELCL [/DT {MSSQL|ORAOLD|ORANew}] [/DS DBServer]  
[/NS NetServiceName] [/DSN DataSouceName] [/DB DatabaseName]  
[/DU UserName] [/DP Password]  
{/M ManchineID | /F FileName}
```

[]は省略可能、{ }は内から選択、下線は省略時解釈、イタリック文字はユーザ指定を示す。
パラメータの重複指定はエラーとなります。

パラメータ	省略可否	説明
/DT	可	CMマネージャが使用しているデータベースタイプを以下から選択して指定してください。 MSSQL MSSQLServer ORAOLD Oracle7 ORANew Oracle8, Oracle8i, Oracle9i 省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/DS <i>DBServer</i>	可	CMマネージャが使用しているデータベースサーバをサーバのホスト名もしくはIPアドレスで指定してください。本オプションは、データベースがSQLServerの場合のみ有効です。Oracleの場合に指定するとエラーとなります。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/NS <i>NetServiceName</i>	可	CMマネージャが使用しているOracleネットサービス名（データベース別名）を指定してください。本オプションは、データベースがOracleの場合のみ有効です。SQLServerの場合に指定するとエラーとなります。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/DSN <i>DataSouceName</i>	可	CMマネージャが使用しているデータソース名を指定してください。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。

/DB <i>DataBaseName</i>	可	CMマネージャが使用しているデータベース名を指定してください。本オプションは、データベースがSQLServerの場合のみ有効です。Oracleの場合に指定するとエラーとなります。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/DU <i>UserName</i>	可	データベースに接続するためのユーザ名を指定してください。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/DP <i>Password</i>	可	データベースに接続するためのパスワードを指定してください。省略時は、レジストリから前回使用した値を検索して使用します。この場合にレジストリから情報が得られなければエラーとなります。
/M <i>MachineID</i>	不可 (選択)	削除するクライアントのクライアント管理IDを指定してください。 /Fオプションとの併用はできません。
/F <i>FileName</i>	不可 (選択)	入力ファイル名を指定してください。入力ファイル名とは、クライアント管理IDを列挙したテキスト形式のファイルを指します。本コマンドは入力ファイルに記述されているクライアントを全て削除します。/Mオプションとの併用はできません。

入力ファイルフォーマット

NNNNNNNN
•
•
•

①クライアント管理ID

8桁のクライアント管理IDを記述します。

出力形式

NNNNNNNN : N N [0XXXXXXXXXX][0XXXXXXXXXX] • • •

①クライアント管理ID

削除対象であるクライアントの8桁のクライアント管理IDを出力します。

②結果

削除結果を出力します。正常に削除できた場合は、"OK"と出力します。異常終了時は、エラーの内容を文章で出力します。

③エラーコード

エラー発生時のエラーコードを8桁の16進数で出力します。

④詳細エラーコード

詳細なエラー内容を示すエラーコードを8桁の16進数で表示します。詳細コードがない場合は出力しません。

形式2

CMDELCL {/? /H}

パラメータ	省略可否	説 明
/?	不可 (選択)	本コマンドのヘルプを表示する。
/H	不可 (選択)	本コマンドのヘルプを表示する。

利用例

以下は、同一クライアントが重複して多数のクライアントIDで登録されたときに、古いクライアントIDの情報を削除する場合の使用例です。

```
cmquery /SELECT "Client.MachineID FROM Client WHERE (MachineID NOT
IN (SELECT MAX(MachineID) FROM Client GROUP BY
Client.MachineName))" /F dupl.txt
if not exist dupl.txt goto end
cmdelcl /F dupl.txt
del dupl.txt
:end
```

14.9 CM クライアント情報表示(CMCDISP)

CMクライアント自体の状態を見るためには、CMクライアント情報表示(CMCDISP.EXE)を実行します。

NEC ESMPRO/CM Client Information

Client :

QUAIL

(IP) 10.33.20.60

2.11

Windows NT Workstation 4.0.1381 Service Pack 3

State :

21

Wait for CLID from the manager.

CLID :

GUID :

b2a94ef0-303f-11d2-8e6f-00004c932999

SL/SP :

(C) NEC DMITOOL(ProMateV/PC98-NX)

Icon :

pcother

Manager :

dlpper

(IP) 10.33.20.64

Agent :

(No Name)

The Inventory service is Not Ready.

OK

● Client

- (1)クライアントのコンピュータの名前。
- (2)クライアントのIPアドレス。複数設定されている場合には1個のみ表示します。

表示	内容
(IP) xxx.yyy.zzz.www	IPアドレスを表示
(No Name)	ホスト名が空白の場合
(Unknown Address)	ホスト名からIPアドレスを検索できない場合。

- (3) CMクライアントのRURを含めたバージョン番号
- (4) OSの名前、バージョン、ビルド番号、説明。

表示	意味
Windows 2000 DataCenter Server	Windows 2000 DataCenter Server
Windows 2000 Advanced Server	Windows 2000 Advanced Server
Windows 2000 Server	Windows 2000 Server

Windows 2000 Professional	Windows 2000 Professional
Windows NT Server (Enterprise)	Windows NT Server Enterpriseエディション
Windows NT Server (Terminal Server)	Windows NT Server Terminal Serverエディション
Windows NT Server (PDC)	プライマリドメインコントローラを実行している Windows NT Server
Windows NT Server (BDC)	バックアップドメインコントローラを実行している Windows NT Server
Windows NT Server	ドメインコントローラではない Windows NT Server
Windows NT Server (Small Business)	Small Business Server
Windows NT Workstation	Windows NT Workstation
Windows NT	識別不能のWindowsまたは、NET APIが利用不可能な状態（サービスの起動の最中）
Windows 95	Windows 95
Windows 98	Windows 98
Windows ME	Windows ME
Unknown Platform	プラットフォームが識別不可能

● State: クライアントの状態

(1)CMクライアントの動作状態。

(2)クライアントの状態の説明。

状態	説明	内容
0x10	After install or initializing.	インストール後または、構成情報管理 (InvProc) の起動待ちの状態
0x21	Wait for CLID from the manager.	クライアント管理ID待ち
0x22	Wait for user logon	ユーザのログオン待ち
0x23	Collecting inventory information.(first)	構成情報（全体）収集中状態
0x30	Wait for stored DB Message from the manager.	DB格納フラグ待ち
0x41	Idol.	アイドル
0x42	Collecting inventory information.	構成情報収集中（リシンク以外）

0x43	Collecting inventory information.(resync)	構成情報収集中（リシンク）
0x51	Sent SNMP trap or wait for send.	差分 SNMP Trap
0x52	Collecting inventory information.	構成情報収集中（リシンク以外）
0x53	Collecting inventory information.(resync)	構成情報収集中（リシンク）
0x61	Transfer inventory information.	部分転送 構成情報収集中（リシンク）
0x63	Collecting inventory information.(resync)	構成情報収集中（リシンク）
0x70	Resync.	リシンク

状態が変わらない場合には以下の場合が考えられます。

状態	様態
0x10	インストール後の状態。 この状態から進まない場合は以下のことが考えられる。 (1) ESMPRO/CM2.0でこの状態から進まない場合には、ESMPROCMとDMITOOlのバージョン不一致が考えられる。ESMPRO/CM2.0が対応しているDMITOOlのバージョンは4.Xのみ。 (2) SNMPが起動されない状態になっている。 ・ Windows NTでSNMPのサービスが手動起動となっている。 ・ SNMP.EXEが削除されている。
0x21	GUIDを取得してクライアント管理IDを要求している状態。 この状態から進まない場合は以下のことが考えられる。 (1) SNMPのTRAP先が間違っている。 (2) Windows95で1回以上サスペンドを行った。
0x22	ユーザのログオンを待ち合わせている状態。 この状態から進まない場合は以下のことが考えられる。 (1) シェルの置き換えを行って、置換したシェルが Runレジストリに登録されたプログラムを起動していない。
0x23	構成情報を収集中。
0x30	CMマネージャに構成情報を通知した状態。 (1) CMマネージャの名前またはIPアドレスが間違っている。 (2) クライアントPCが名前解決できる状態ではない。
0x41	定常状態。通常的位置。

- CLID: クライアント管理ID

- (1) クライアント管理ID

CMマネージャが、自マネージャ配下に対して割り当てたID。CMマネージャはこのIDでCMクライアントの管理を行う。8桁の英数字からなりたち、上3桁がマネージャIDとなり、下5桁をCMクライアントの管理にCMマネージャが払い出しを行う。

- GUID

- (1) GUID

グローバルユニークID。X/Openで定められているUUID(ユニバーサルユニークID)の一種で時間とMACアドレスと強制的にカウントアップされるカウンタからなりたつ128ビットの値。

- SL/SP: サービスレイヤ・サービスプロバイダ

- (1) サービスレイヤ・サービスプロバイダの種別

表示を番号から文字列に変更する。

表示 番号	SL/SP の種類	表示文字列	備考
1	DMITool PC-9821用	NEC DMITool(98)	
2	DMITool PB-NEC用 DMITool PC-98NX用	NEC DMITool(PB-NEC/PC98-NX)	
3	Intel LANDesk ClientManager 3.x 以降	Intel LDCM	
4	独自収集	(Using Win32 API)	
5	汎用DMIサービスプロバイダ対応	Generic DMI SP	

- (2) サービスレイヤ・サービスプロバイダのバージョン

タイプ	SL/SP の種類	表示文字列	
1	DMITool PC-9821用	DMIToolのバージョンを表示	
2	DMITool PB-NEC用 DMITool PC-98NX用		
3	LANDesk ClientManager Ver3.1以上	バージョンを表示	
4	独自の収集方式	表示なし	
5	汎用DMI SP対応	表示なし	

- ICON: アイコンタイプ

- (1) アイコンタイプ

統合ビューアで表示を行うアイコンのタイプ

値	意味
Pc98	DMIToolを使用した NEC PC-9821
Pcpbnec	DMIToolを使用した PB-NEC ProMate V
Pcother	・ DMI 2.0 I/Fと連携しないで独自に収集を行う全マシン ・ Intel LANDesk ClientManagerによる収集を行う全マシン ・ DMIToolにより収集を行う NEC PC98-NX

- Manager: マネージャ

- (1) マネージャの名前

(2) マネージャの名前が IPアドレスでない場合には、gethostbyname()で引いたIPアドレス。

表示	
(IP) xxx.yyy.zzz.www	IPアドレスを表示
(No Name)	ホスト名が空白の場合
(Unknown Address)	ホスト名からIPアドレスへの変換ができなかった。

CMマネージャを名前で指定して、名前からIPアドレスへの変換が行われない場合には、DNS、WINS、HOSTSファイルでの名前解決できるようにするか、CMマネージャの指定をIPアドレスで行う。

- Agent: 中継エージェント

- (1) 中継エージェントの名前

(2) 中継エージェントの名前が IPアドレスでない場合には、gethostbyname()で引いたIPアドレス。

表示	
(IP) xxx.yyy.zzz.www	IPアドレスを表示
(No Name)	ホスト名が空白の場合
(Unknown Address)	ホスト名からIPアドレスへの変換ができなかった。

中継エージェントを指定していない場合には、“(No Name)”の表示となります。

中継エージェントを名前で指定して、名前からIPアドレスへの変換が行われない場合には、DNS、WINS、HOSTSファイルでの名前解決できるようにするか、CMマネージャの指定をIPアドレスで行います。

- インベントリサービスの状態

“The Inventory service is Ready.”の場合に、Stateの情報が有効となります。

メッセージ	内容
The Base service is Not Ready.	CMクライアントの基盤サービスが動作していない。
The Inventory Main service is Not Ready.	CMクライアントの構成管理のメインサービスが動作していない。
The Inventory service is Not Ready.	CMクライアントの構成管理のサービスが動作していない。
The Inventory service is Ready.	CMクライアントの構成管理のサービスが動作している。

14.10 簡易資産情報入力(CLIAS, CLIAS2)

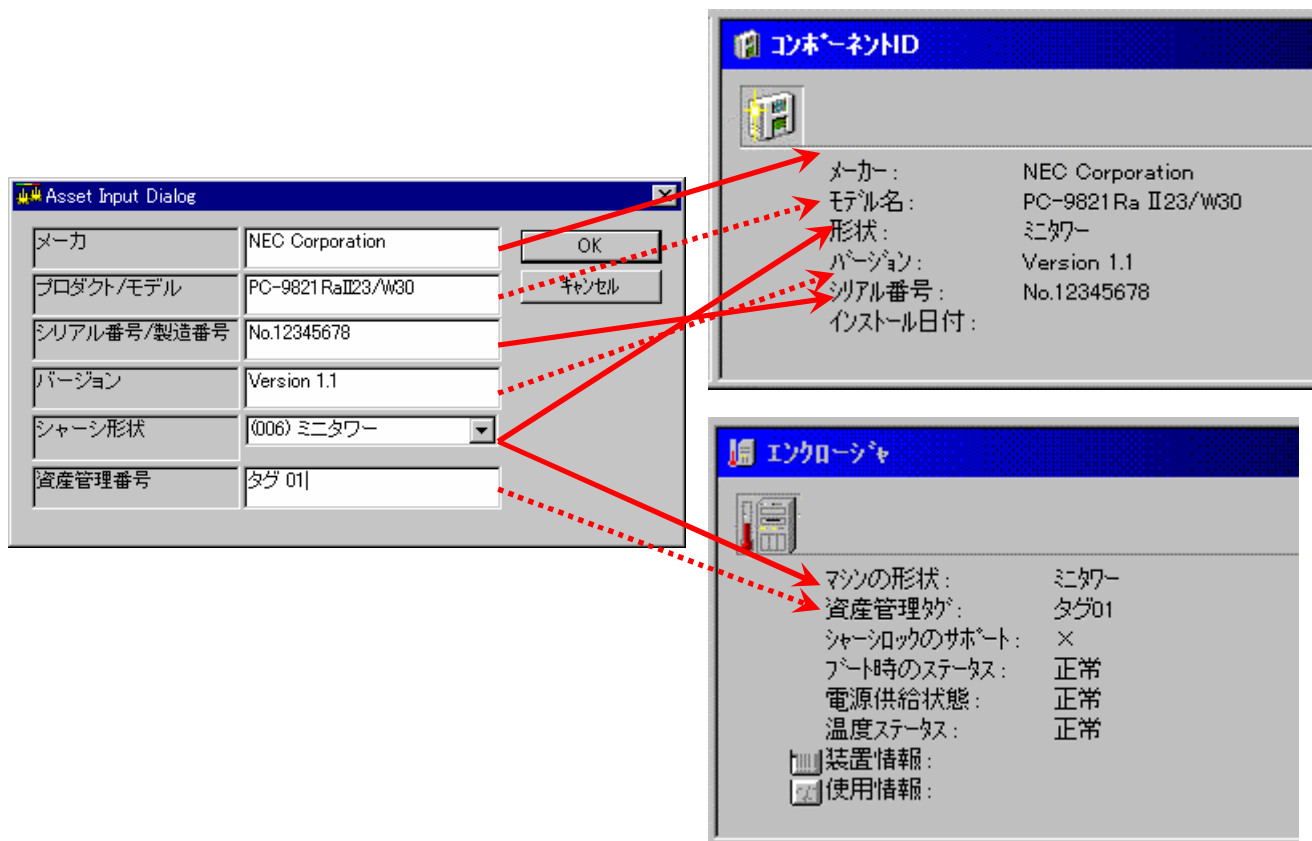
自動収集できなかった場合に、簡単な資産情報を入力するため簡易資産情報入力 (CLIAS.EXE, CLIAS2.EXE)を実行します。

- CLIAS



項目	内容
メーカー	PCを製造したベンダの名前
プロダクト/モデル	PCのモデル
シリアル番号/製造番号	PCの製造番号
バージョン	バージョン
シャーシ形状	PCのシャーシの形状
資産管理番号	資産管理番号

本ツールと、CMデータビューアの表示の関係は以下のとおりです。左側が本ツールの画面で、右側が、CMデータビューアの画面です。

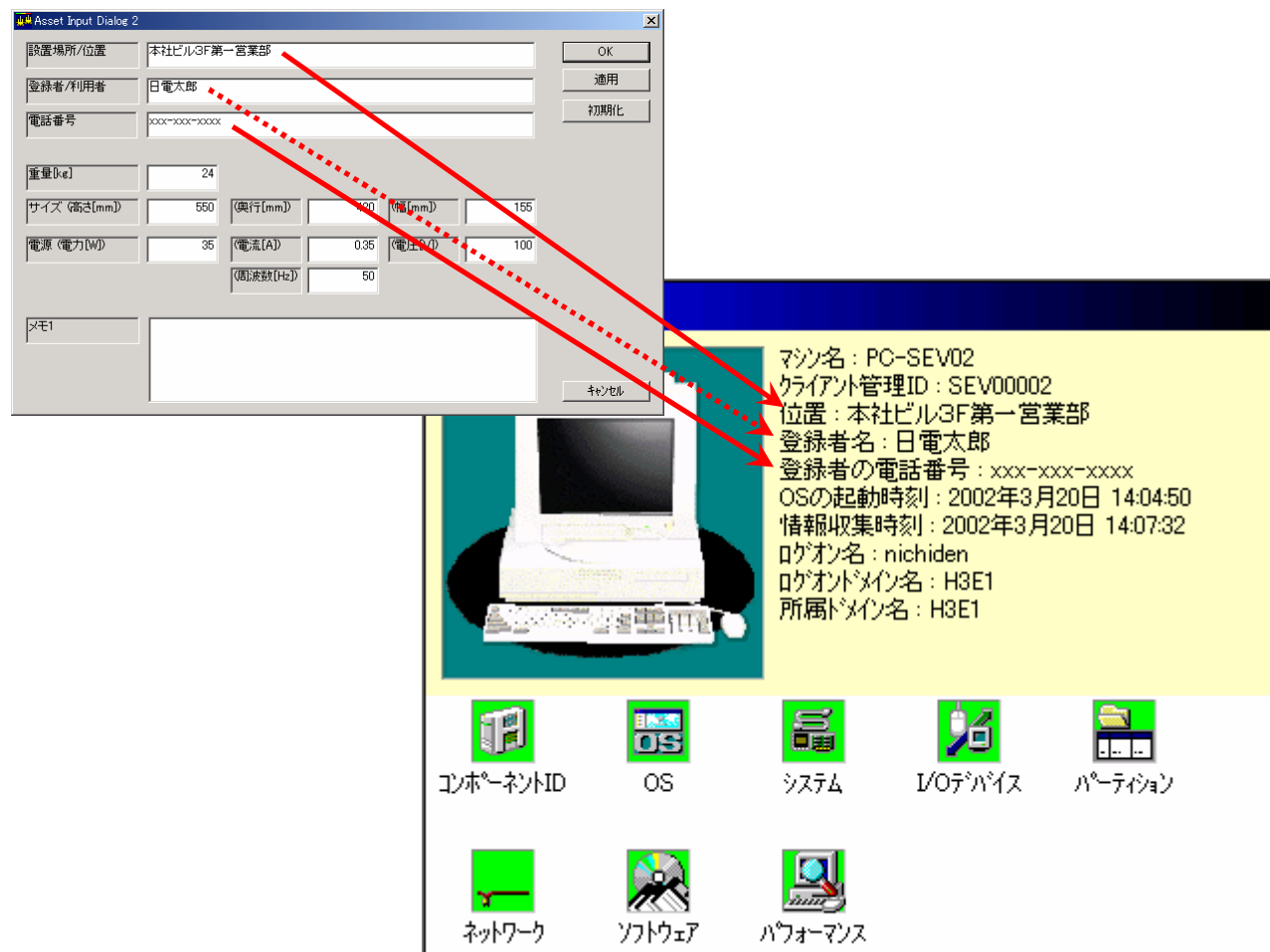


- CLIAS2

Asset Input Dialog 2	
設置場所/位置	本社ビル3F第一営業部
登録者/利用者	日電太郎
電話番号	xxx-xxx-xxxx
重量[kg]	24
サイズ (高さ[mm])	550
(奥行[mm])	420
(幅[mm])	155
電源 (電力[W])	35
(電流[A])	0.35
(電圧[V])	100
(周波数[Hz])	50
メモ1	

項目	内容
設置場所/位置	PCの設置場所および位置
登録者/利用者	PCの登録者または利用者
電話番号	電話番号
重量[kg]	PCの重量
サイズ	PCの高さ、奥行、幅
電源	PCの消費電力、電流、電圧
周波数	PCの電源周波数
メモ1	PCについてのメモ

本ツールと、CMデータビューアの表示の関係は以下のとおりです。左側が本ツールの画面で、右側が、CMデータビューアの画面です。



重量、サイズ、電源、メモについてはCMデータビューアに表示されませんが、データベースの CMStyleテーブルに格納されます。CM管理ツールのクエリを使って参照してください。クエリの使用方法については、「7.4.4 「クエリ」メニュー」を参照してください。

14.11 時刻同期コマンド(TMCL)

クライアントマシンの時刻を、CMマネージャマシンあるいは指定したタイムサーバマシンの時刻に同期させるコマンドです。

■ レジストリの設定

時刻同期コマンドを使用する際には、あらかじめクライアントにおいてレジストリの設定が必要です

(1)レジストリのインポート（必須作業）

以下の方法でレジストリのインポートを行なってください。

レジストリのインポートは、「Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用 #1」と書かれているCD-ROM媒体のルートディレクトリに格納されているPPLIST.TXTを参照し、「ClientManager」が格納されているCD-ROM媒体を用意し、CD-ROMドライブに挿入し、¥CLIENT¥NT95¥ESMCMM¥(メジャーバージョン,マイナーバージョン)¥TOOLS¥TMCL に格納されているTMCL.REGを実行してください。

例えば、ESMPRO/CM 4.0では、「NEC Expressサーバ Express5800シリーズ Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用 #2 (3/3)」と書かれているCD-ROMの¥CLIENT¥NT95¥ESMCMM¥40¥TOOLS¥TMCLに格納されているTMCL.REGを実行します。

(2)レジストリのトレースの出力先の設定（必須作業）

以下のレジストリの値を適切な値に変更します。

HKLM,SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Tracing¥Tmcl¥[TraceFileName]

(3)時刻同期に関する動作の設定（任意作業）

HKLM,SOFTWARE¥NEC¥ESMPRO/CM¥Component¥tm

"AverageCount"	マネージャの時間を得る回数。 指定した回数、サーバの時刻を取得して時差の平均を計算します。 この時差平均分、クライアントの時刻をずらしします。 規定値は2回です。
"DontReturn"	0: 過去への時刻変更を許可します。 1: 過去への時刻変更を許可しません。
"MinCorrectionTime"	最低修正範囲[m sec] 時差がこの時間より小さい場合には、時刻の変更は行いません。

既定値は、250[m sec]

"MaxCorrectionTime"	最大修正範囲[m sec] 時差がこの時間より大きい場合には、時刻の変更は行いません。 0の場合には、最大修正範囲は利用しません。
"Port"	ポート番号
"TimerServer1"	タイムサーバを指定します。 名前またはIPアドレスが利用可能です。 この値の指定がない場合には、CMマネージャをタイムサーバとして扱います。

■ 時刻同期の実行

クライアントにおいて、管理者権限を持つユーザまたはシステムアカウントでTMCL.EXE を実行します。実行すると時刻の同期を行います。

TMCL.EXEは <CMのインストールフォルダ>\Bin フォルダにあります。

14	その他のツール	14-1
14.1	CMデータベース作成ツール	14-2
14.1.1	CMデータベース作成ツールの機能	14-2
14.1.2	手順	14-2
14.1.2.1	CMマネージャをインストールする場合の設定手順	14-2
14.1.2.2	データベースをバックアップする場合の手順	14-3
14.1.2.3	データベースをリカバリする場合の手順	14-4
14.1.2.4	バックアップの世代管理をする場合の手順	14-4
14.1.3	使用方法	14-6
14.1.3.1	起動	14-6
14.1.3.2	パスワードを変更するには	14-7
14.1.3.3	データベースを作成するには	14-8
14.1.3.4	データベースを削除するには	14-10
14.1.3.5	データベースをバックアップするには	14-11
14.1.3.6	データベースをリカバリするには	14-12
14.1.3.7	バックアップを削除するには	14-13
14.1.3.8	ツールを終了するには	14-13
14.1.4	制限事項	14-14
14.2	電源制御コマンド	14-15
14.3	アラートクリア(CMALTCLR)コマンド	14-17
14.4	リシンク(CMRESYNC)コマンド	14-19
14.5	アイコン登録 (CMmkICO) コマンド	14-20
14.6	クライアント情報差分表示ツール	14-23
14.7	クエリ実行 (CMQUERYコマンド) コマンド	14-28
14.8	CMクライアント削除 (CMDLCLコマンド) コマンド	14-32
14.9	CMクライアント情報表示(CMCDISP)	14-35
14.10	簡易資産情報入力(CLIAS, CLIAS2)	14-41
14.11	時刻同期コマンド(TMCL)	14-45